

2013 (平成25)年紙・板紙内需試算報告

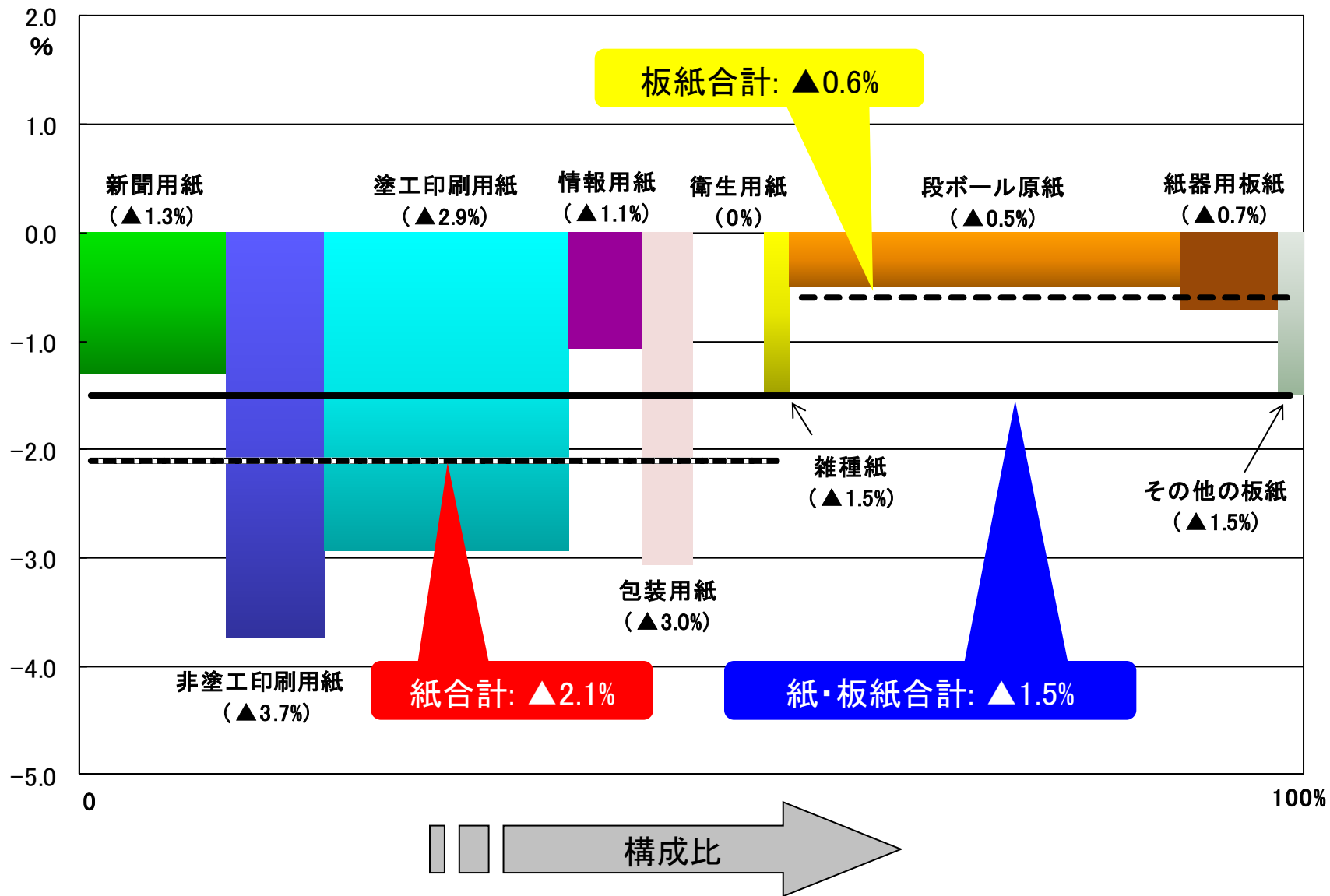
平成25年1月21日

日本製紙連合会

内 容

- I . 2013(平成25)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II . 2013(平成25)年 品種別内需試算…P6～23
- III . 2012年 紙・板紙内需実績見込み…P24
- IV . 参考…P25～26

I. 2013 (平成25)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



② 2013 (平成25)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

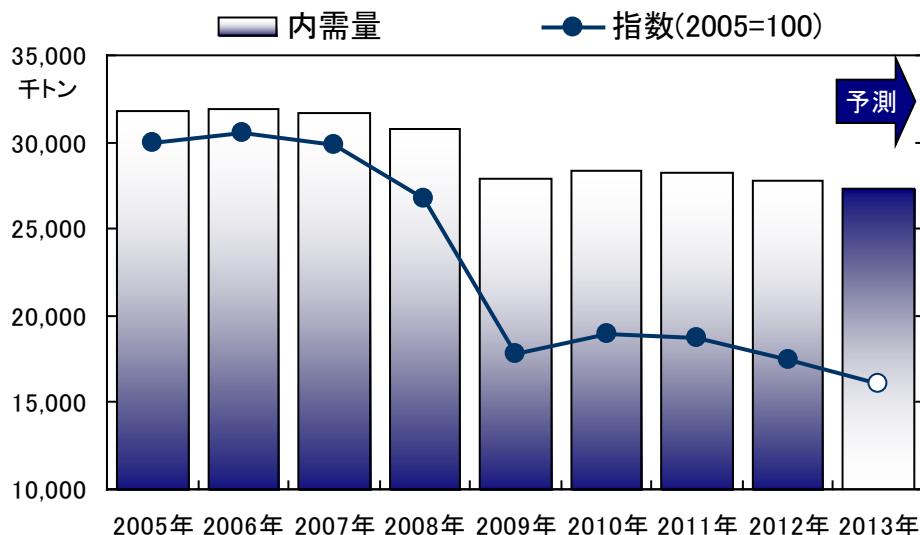
	品 種	2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年		2011年		2012年見込み		2013年見通し	
紙	新聞用紙	3,759	0.1	3,764	0.1	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,304	1.8	3,261	▲ 1.3
	非塗工印刷用紙	3,140	▲ 1.7	3,097	▲ 1.4	3,053	▲ 1.4	2,830	▲ 7.3	2,583	▲ 8.7	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,343	▲ 3.5	2,255	▲ 3.7
	塗工印刷用紙	6,876	1.0	6,954	1.1	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,694	▲ 12.6	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,491	▲ 2.0	5,330	▲ 2.9
	情報用紙	1,977	▲ 0.2	1,992	0.8	2,005	0.7	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,850	▲ 0.1	1,831	▲ 1.1
	印刷・情報用紙計	11,993	0.1	12,042	0.4	11,876	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,123	▲ 10.8	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,684	▲ 2.0	9,416	▲ 2.8
	未ざらし包装紙	598	▲ 0.8	604	1.0	612	1.3	588	▲ 3.9	491	▲ 16.5	552	12.6	534	▲ 3.4	500	▲ 6.4	485	▲ 3.0
	ざらし包装紙	354	0.6	362	2.2	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.0	300	3.3	291	▲ 2.8	275	▲ 5.6	266	▲ 3.2
	包装用紙計	952	▲ 0.3	966	1.5	981	1.6	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	852	9.1	825	▲ 3.2	775	▲ 6.1	752	▲ 3.0
	衛生用紙	1,810	3.4	1,833	1.3	1,820	▲ 0.7	1,832	0.6	1,836	0.2	1,856	1.1	1,873	0.9	1,882	0.5	1,882	0.0
	雑種紙	826	▲ 7.6	852	3.1	872	2.4	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	797	11.8	768	▲ 3.7	746	▲ 2.9	735	▲ 1.5
	紙 計	19,338	0.0	19,457	0.6	19,264	▲ 1.0	18,579	▲ 3.6	16,867	▲ 9.2	16,804	▲ 0.4	16,595	▲ 1.2	16,392	▲ 1.2	16,046	▲ 2.1
板	ライナー	5,616	▲ 0.0	5,621	0.1	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,285	1.1	5,210	▲ 1.4	5,184	▲ 0.5
	中しん原紙	3,726	0.9	3,761	0.9	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,478	▲ 1.1	3,461	▲ 0.5
	段ボール原紙計	9,342	0.3	9,381	0.4	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,800	0.9	8,688	▲ 1.3	8,645	▲ 0.5
	白板紙	2,029	▲ 0.4	2,031	0.1	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,975	1.9	1,897	▲ 3.9	1,886	▲ 0.6
	黄チップ・色板	206	▲ 1.4	205	▲ 0.5	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.8	155	0.0	143	▲ 7.8	140	▲ 2.0
	紙器用板紙計	2,236	▲ 0.5	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,130	1.7	2,040	▲ 4.2	2,026	▲ 0.7
	その他の板紙	858	▲ 2.5	867	1.0	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	641	▲ 1.5
		板 紙 計	12,435	▲ 0.0	12,485	0.4	12,461	▲ 0.2	12,177	▲ 2.3	11,046	▲ 9.3	11,489	4.0	11,602	1.1	11,380	▲ 1.9	11,312
	紙・板紙計	31,774	0.0	31,942	0.5	31,725	▲ 0.7	30,756	▲ 3.1	27,913	▲ 9.2	28,293	1.4	28,197	▲ 0.3	27,771	▲ 1.5	27,358	▲ 1.5

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

③ 2013 (平成25)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気回復(実質GDPのプラス予想/企業業績の改善)</p> <p>②復興需要の継続</p> <p>③増税前の駆け込み需要 ・住宅等、不動産関係を中心に増加 —主に印刷・情報用紙、段ボール原紙に影響</p> <p>④レジャー・旅行需要は堅調 ・旅行者数(国内、海外、訪日外国人)の増加 ・週末3連休の増加 —主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>⑤内食化の継続</p> <p>⑥医薬・健康関連市場の拡大 ・ジェネリック、新国民病「ロコモ」 ※ロコモ＝ロコモティブシンドローム(運動器症候群)</p> <p>⑦ネット通販等の拡大</p> <p>⑧コンビニやドラッグストアの出店増 —主に段ボール原紙・白板紙に影響</p> <p>⑨花粉飛散数の増加 —主にティシュペーパーに影響</p>	<p>①構造的要因の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人口減/少子高齢化 ■紙の出版物の減少 —主に印刷・情報用紙に影響 ■広告の紙離れ(ネット媒体の増加) —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響 ■需要家の用紙関連コスト削減 ・経費削減に伴う節約の動き ・チラシ・カタログ・パンフレット類、取り扱い説明書等の部数減、サイズ縮小 ・軽量品、低グレード品へのシフト ・包装資材の他分野へのシフトや省包装化 ・電子媒体への移行 ■産業の空洞化 ・国内工場の閉鎖・縮小と海外生産へのシフトが加速 —主に段ボール原紙に影響 <p>②イベント開催の減少 ・前年はスカイツリー開業、ロンドン五輪等のイベントが豊富 ・今年はワールド・ベースボール・クラシック等、限定的 —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響</p> <p>③電気料金の値上げ ・企業活動への足かせと家計の負担増</p> <p>④うるう年の反動</p>

Ⅱ. 2013(平成25)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計



「近年の動向」

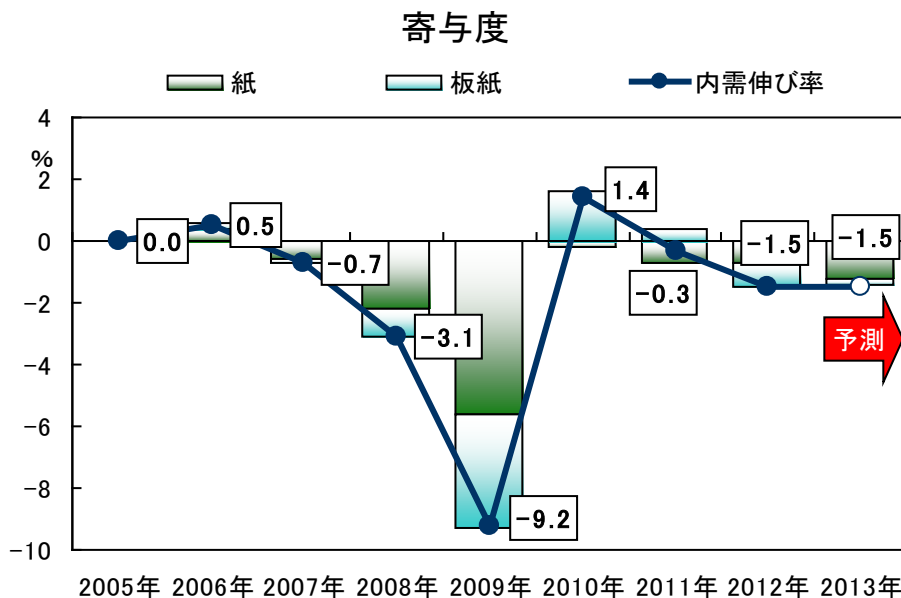
★紙・板紙の内需はリーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、2010年は4年ぶりにプラスに転じたものの、大きな反動もなく微増にとどまった。2011年は大震災の影響もあり再びマイナスとなり、2012年は世界経済の不振や円高を背景とした輸出関連需要の減少、前年の大震災の特需の影響等もあり2年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は減少したが、輸入は増加した(25頁参照)。

「2013年予測」

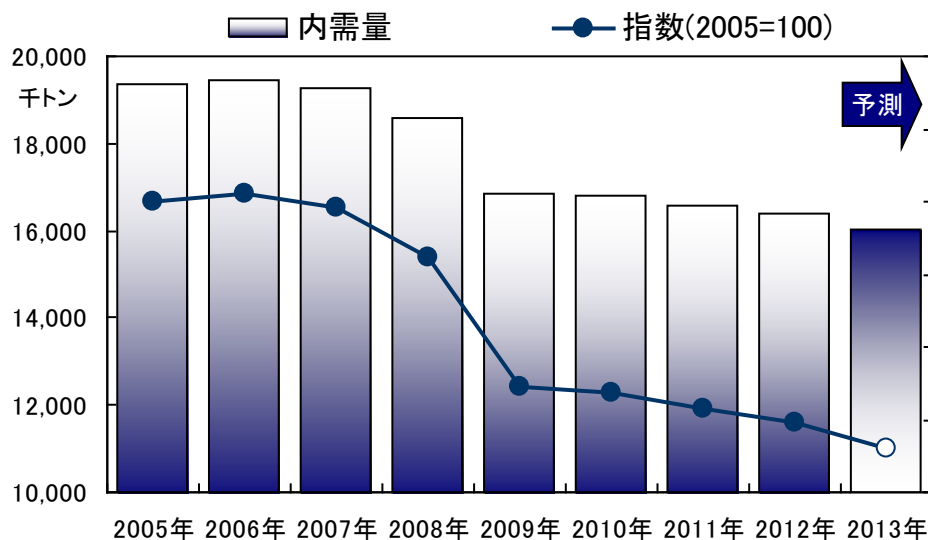
☆アンケート、ヒアリング等による2013年のベースシナリオについて、実質GDPは2年連続のプラス成長が見込まれるが、電力問題の影響は引き続き懸念材料であり、世界経済も最悪期を脱したものの、先行き不透明感は強い。こうした経済環境の下、紙・板紙の内需は引き続き厳しい局面が予想される。紙では広告費抑制の継続や電子媒体へのシフト等を背景に減少、板紙も電気・機械向け等の不振により微減ながら前年を下回ると予測した。

☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,736万トン、前年に対して1.5%減、約41万トンの減少となる。マイナス成長は3年連続。過去の実績値と比較すると、過去最高の2000年(3,197万トン)に対しては85.6%、約461万トンの減少となる。

☆紙・板紙別寄与度について、紙は1.3pt減、板紙は0.2pt減と、紙、板紙ともにマイナスの見込みである。



(2) 紙合計



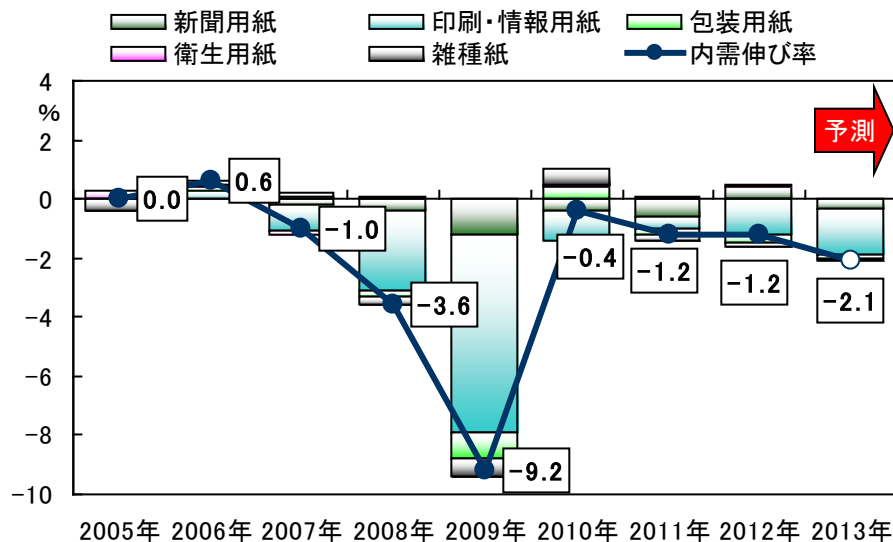
「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに減少傾向にある。特に2008年のリーマン・ショック後、大きく数量を落とし、2010年、11年も落ち幅が縮小する程度。2012年は新聞用紙が6年ぶりのプラスとなり、衛生用紙もプラスを維持したものの、その他の品種は引き続き前年を下回り、全体では6年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は2年連続の減少。一方、輸入は円高等から前年を更に上回り、過去最高を更新した(25頁参照)。

「2013年予測」

☆主要品種について、衛生用紙は横ばいを予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙、包装用紙は構造的マイナス要因の定着等もあり減少、全体では前年を下回ると予測した。

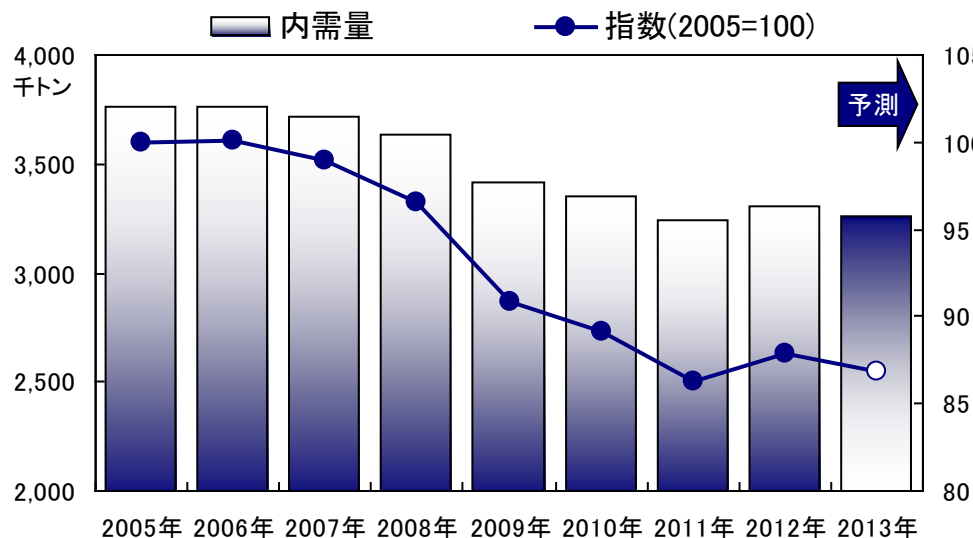
寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,605万トン、前年に対して2.1%減、約35万トンの減少となる。マイナス成長は7年連続。過去の実績値と比較すると、1990年代前半と同水準、また過去最高の2006年(1,946万トン)に対しては82.5%、約340万トンの減少となる。

☆品種別寄与度について、新聞用紙は0.3pt減、印刷・情報用紙は1.6pt減、包装用紙は0.1pt減、衛生用紙は0.0ptの見込みである。

(3) 新聞用紙



「近年の動向」

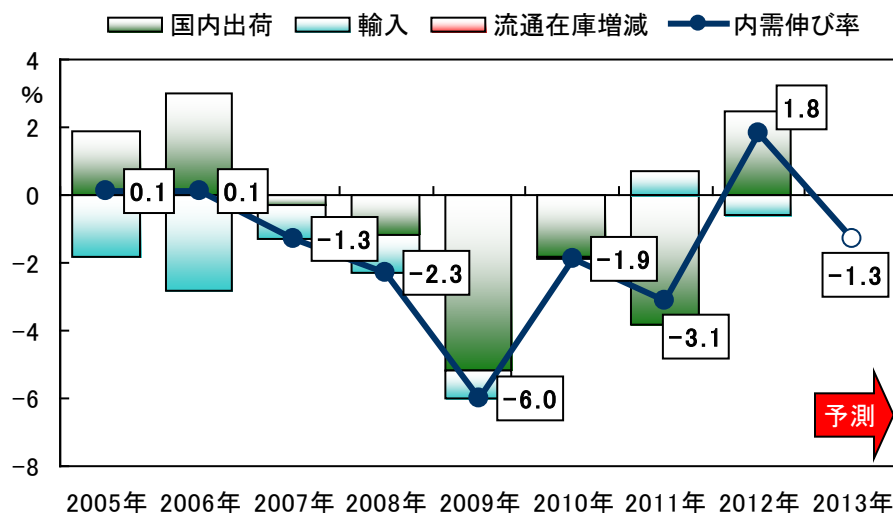
★新聞用紙の内需は、情報収集手段の変化(多様化)に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主のマス媒体からネット等へのシフトといった構造的要因により、2007年以降減少が続いていたが、2012年は6年ぶりに前年比プラスとなった。この要因としては、①うるう年のため発行日数が1日多かったこと、②夏季オリンピック等のイベントによりスポット需要が発生したこと、③前年が大震災の影響で大幅に落ち込んでいたこと等が挙げられる。ただし、上記のような構造的な減少要因が払拭された訳ではない。

「2013年予測」

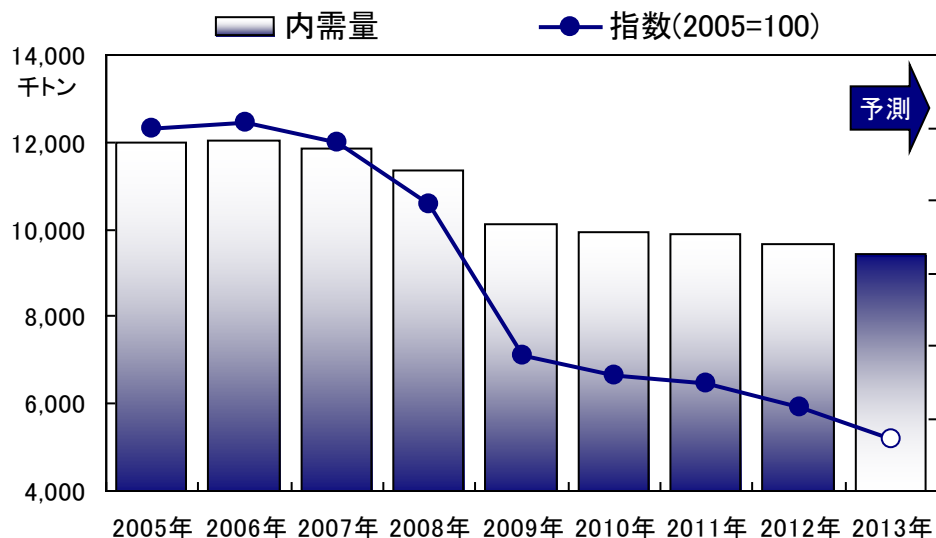
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、引き続き減少が見込まれるが、減少ペースは緩和される見通し。頁数については、基調として広告の他媒体へのシフトは続くものの、頁数自体は大きな変動はないと予想される。イベント等のスポット需要に期待が持てず、前年から発行日数が1日減ることも減少要因となる。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し1.3%の減少と予測した。

寄与度



(4) 印刷・情報用紙



「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに減少傾向にある。特にリーマン・ショックを契機に減少が加速し、2010年、11年も落ち幅が縮小するにとどまった。2012年は前年の東日本大震災の反動増もほとんど見られず、ICT化の進展等もあり、前年を上回る落ち込みを示した。主要品種は、情報用紙は横ばいも、印刷用紙(非塗工、塗工)が減少し、全体では6年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は2年連続で前年を下回ったが、他方、輸入は円高を背景に塗工紙及びPPC用紙を中心に増加し、2年連続で過去最高を更新した。輸入比率も1.9pt上昇の18.4%と2割弱の水準に達した。

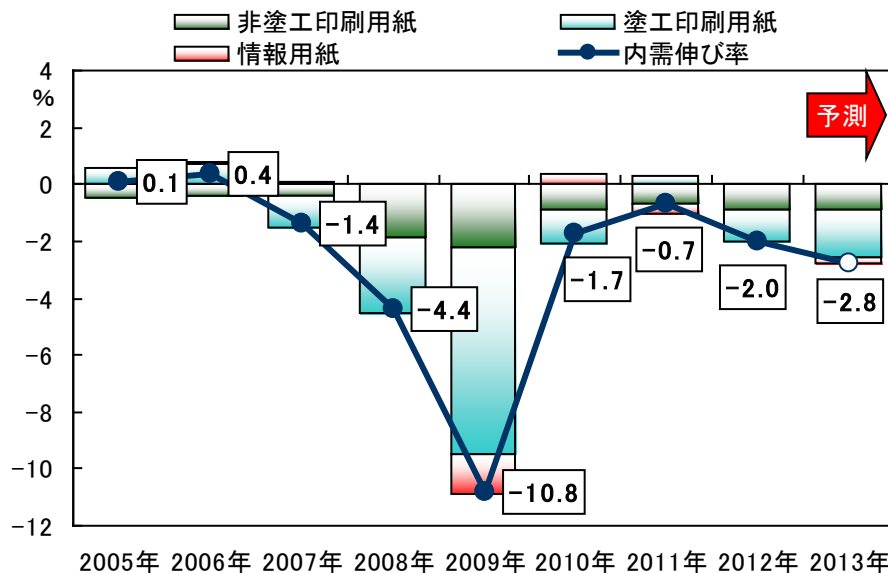
「2013年予測」

☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は942万トン、前年に対し2.8%減、約27万トンの減少となる。マイナス成長は7年連続。過去の実績値と比較すると、1992年とほぼ同水準。また、過去最高の2006年(1,204万トン)に対しては8割弱(78.2%)、約260万トンの減少となる。

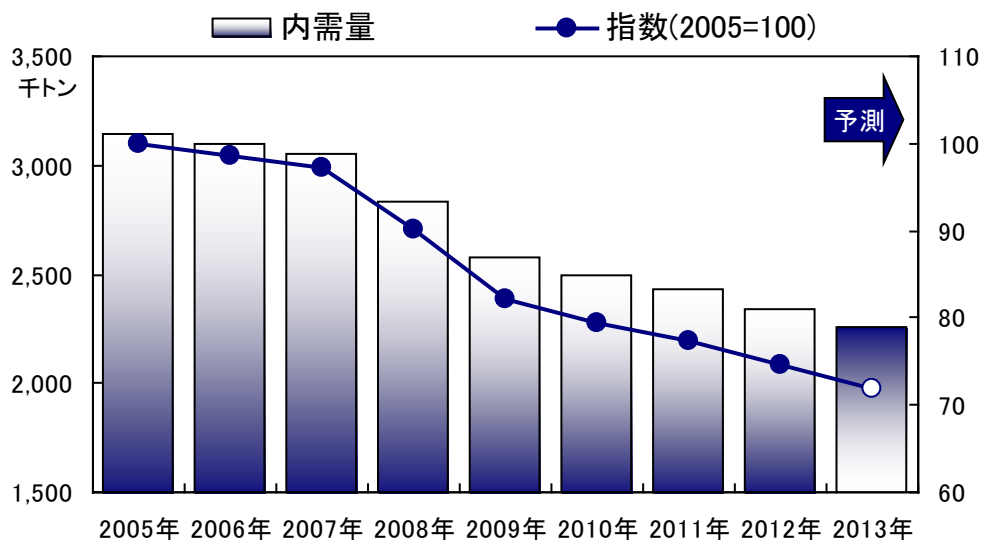
☆品種別寄与度について、非塗工印刷用紙は0.9pt減、塗工印刷用紙は1.7pt減、情報用紙は0.2pt減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

寄与度



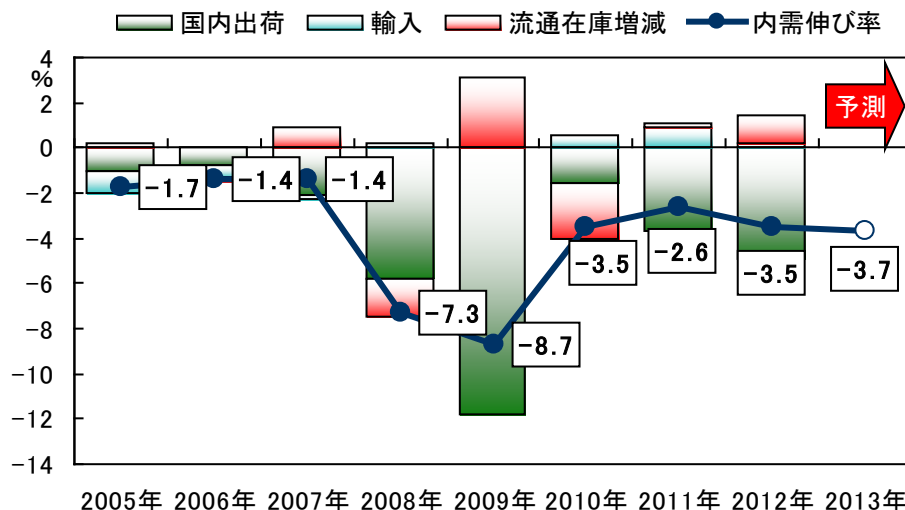
(4)-① 非塗工印刷用紙



「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、長引く出版不況の影響等により中・下級印刷紙を中心に減少傾向にある。2012年は、上級印刷紙、中・下級印刷紙、薄葉・特殊印刷紙とも減少し、全体では12年連続で前年を下回ったが、中・下級印刷紙において、下げ止まりの兆しが見られた一方で、上級印刷紙は、前年の東日本大震災の被災等により供給力の低下した品種からの代替需要が減少したこと、電子媒体の普及・拡大に伴い取扱説明書、約款関係が減少したことから、中・下級印刷紙を上回る落ち込みを示した。サプライ別には、国内出荷は上級印刷紙を中心に8年連続の減少、他方、輸入は上級印刷紙を中心に3年連続の増加となった。

寄与度

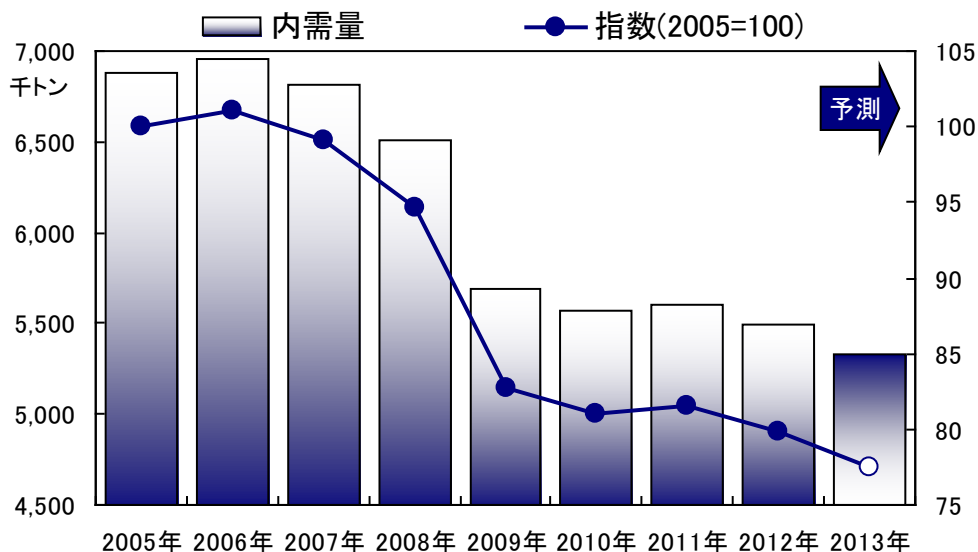


「2013年予測」

☆品種別について、①上級印刷紙は、汎用性の高いことに加え、価格差を反映して他品種からのシフトが予想されるが、需要家のコスト削減による電子媒体へのシフト(取扱説明書、約款関連等)により、②中・下級印刷紙は、既存の出版市場の縮小を主因に、スマートフォンやタブレット(多機能携帯端末)等電子媒体の普及による情報源、娯楽の多様化(但し、電子書籍については、アップルの参入等で主要な電子書店が出そろう、出版社の対応は本格化しそうだが、影響は緩やかもの)により、③薄葉・特殊印刷紙は価格差による上級印刷紙へのシフト等により、いずれも前年を下回るものと見られる。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.7%の減少と予測した。

(4)-② 塗工印刷用紙



「近年の動向」

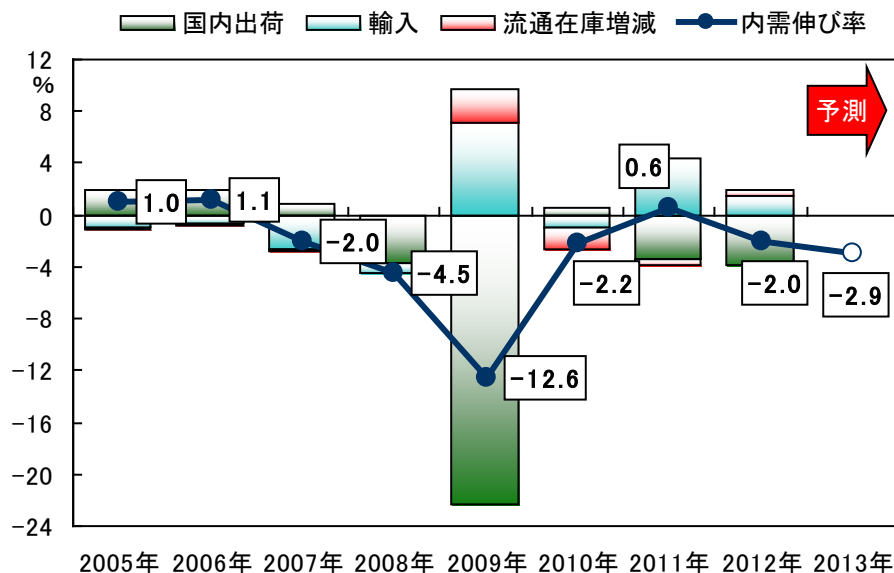
★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は、2006年をピークに縮小傾向にある。特に2008年のリーマン・ショック後、大きく減少し、以後底ばいで推移している。2012年は、前年の東日本大震災の影響は薄れつつも、商業印刷向けを中心に、主要品種はいずれも前年を下回った。サプライ別には、国内出荷は、被災したマシンの再稼働により供給力は改善したが、2年連続の減少。他方、輸入は円高を背景に年前半を中心に大幅に増加し、2年連続で過去最高を更新した。輸入比率も1.8pt上昇の18.4%と2割弱の水準に達した。

「2013年予測」

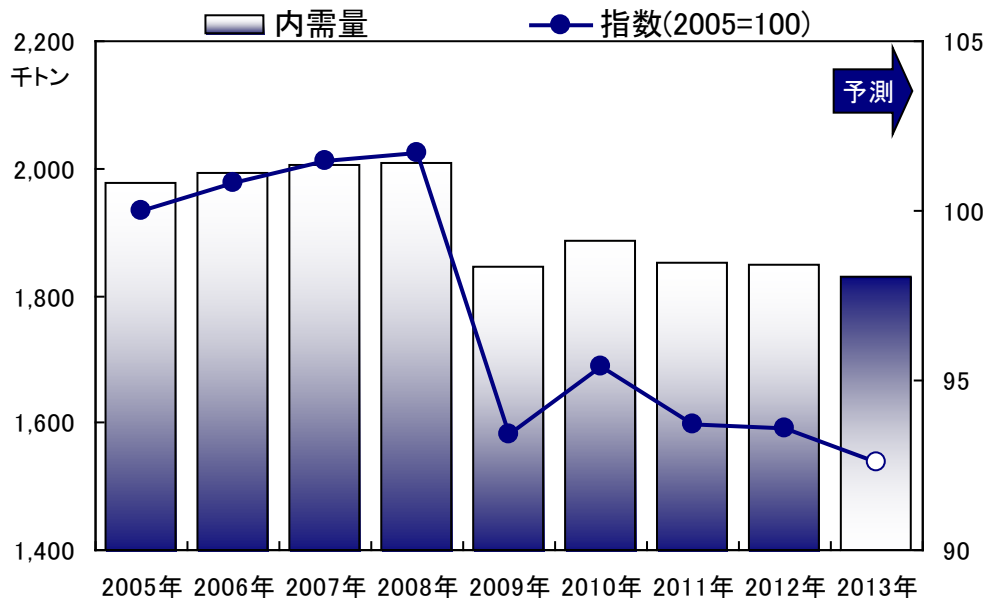
☆景気は弱いながらも回復が見込まれるものの、需要家の継続的なコスト削減により、広告宣伝費等は抑制傾向。カタログ、チラシ等は部数減、枚数減、サイズダウン(判型の縮小)等により全般的には低調に推移するものと見られる。また、電子チラシ、ネット広告等の広告媒体へのシフトやグレードダウン、低米坪化も引き続き予想されるため、あまり期待は持てない。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.9%の減少と予測した。なお、消費増税の駆け込み需要については押し上げ要因とはなるが、商業印刷向けを中心に、どの程度影響を及ぼすかどうかは不透明。

寄与度



(4)-③ 情報用紙



「近年の動向」

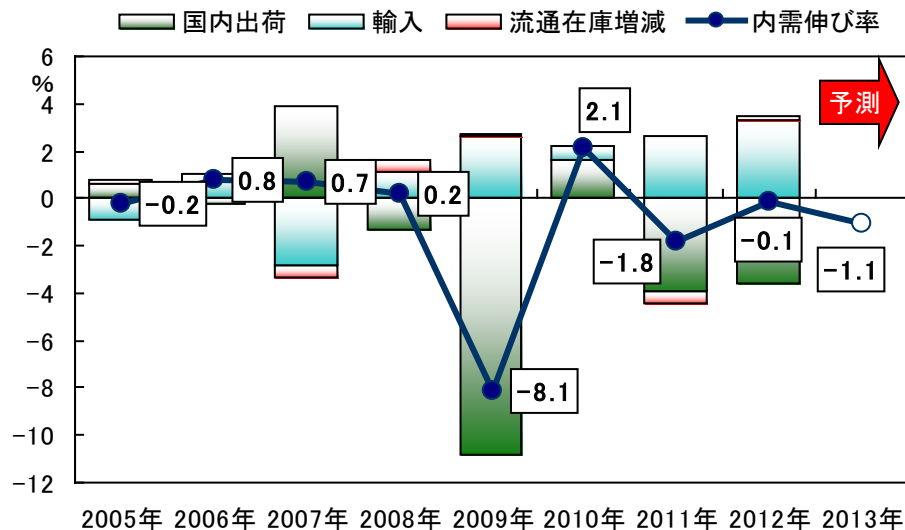
★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動増や国勢調査に伴うスポット需要等から増加に転じた。その後は、2011年、2012年と2年連続で前年割れとなっている。品種別では、PPC用紙が堅調に推移しているのを除き、ほとんどの品種がマイナス基調となっている。PPC用紙については、輸入が2008年以降増加を続け、2012年は初めて50万トンを超えた。一方、国内出荷は2011年、2012年と2年連続で減少となり、2012年の輸入比率は40%を上回っている。

「2013年予測」

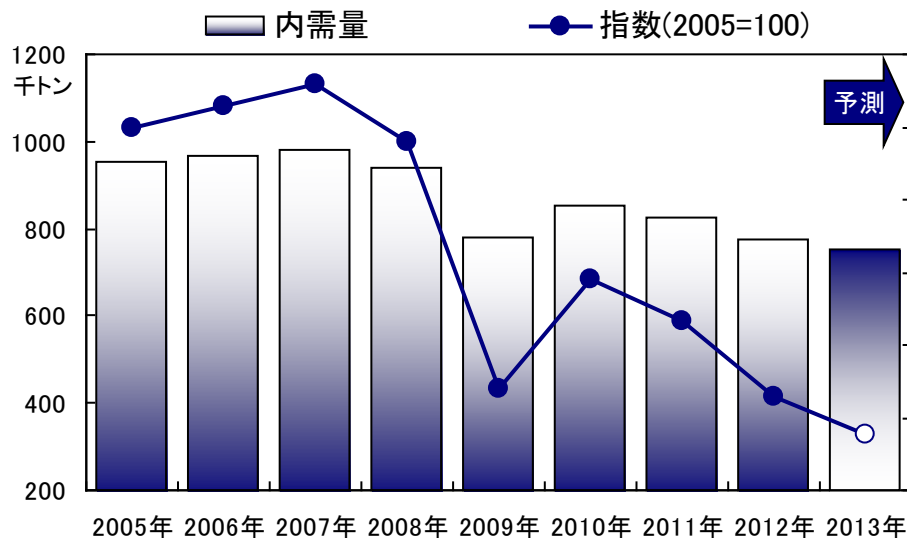
☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は根強いものがあるが、他品種（ノーカーボン紙等）からのシフトもあって、前年と同水準程度は期待できる。一方、フォーム用紙は、デザインフォームのDPS向けは底堅い需要が期待できるものの、封書からハガキへの移行や、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙についても、帳票類の減少（単票化、ペーパーレス化）等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化等の影響もあり、全体として増加は期待できない。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.1%の減少と予測した。

寄与度



(5) 包装用紙



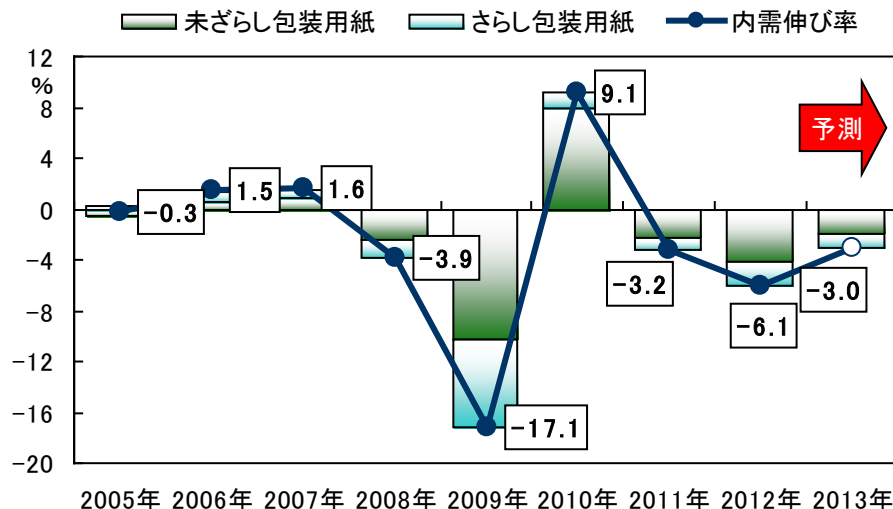
「近年の動向」

★包装用紙の内需は、リーマン・ショック後のリセッションにより2009年に前年を17.1%下回った後、2010年の反動増はあったものの、2011年、12年と2年連続で前年を下回った。特に2012年は6.1%の大きな下落となり、実量では2009年とほぼ同水準の77.5万トンまで落ち込んだ。包装用紙全体の中では、価格等の要因によりさらし包装紙から未ざらし包装紙への需要のシフトが見られる。

「2013年予測」

☆企業のコスト削減や環境意識の高まりを主因とする最近の省包装の流れに大きな変化は見込めない。またさらし包装紙から安価な未ざらし包装紙への需要の動きに加え、包装用紙から印刷用紙を中心とする他品種へのシフトが加速することが予想される。唯一、手提袋用途では、個人消費の回復により上ぶれの可能性もあるが、景気の動向いかんであり、期待の域を出ない。

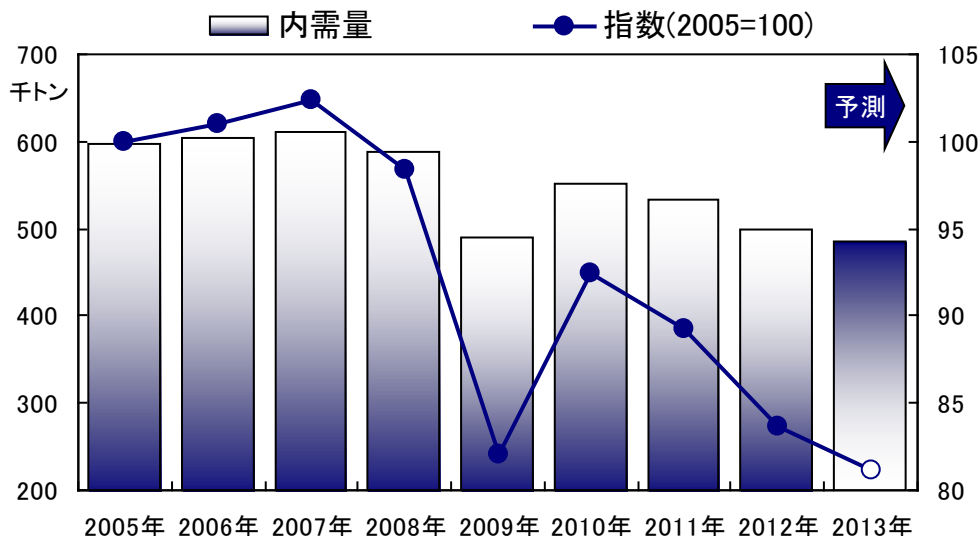
寄与度



☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は75.2万トン、前年に対し3.0%の減少となる。過去最高であった1974年の128万トンに対しては41.3%減、52.8万トンもの減少となる。

☆詳細については当該品種頁参照。

(5) - ① 未ざらし包装用紙



「近年の動向」

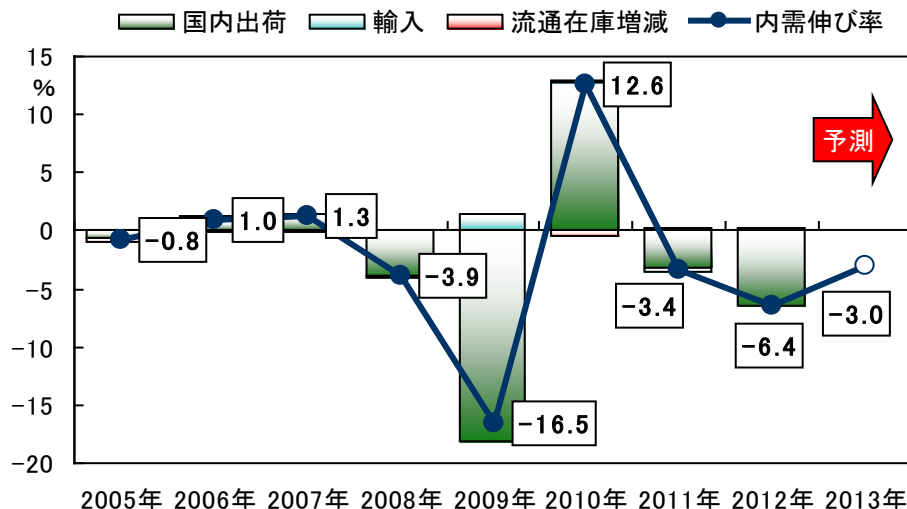
★2012年の未ざらし包装用紙の内需は前年比6.4%減と2年連続の減少となり、リーマン・ショック後2009年の16.5%の落ち込み以降では、最大の下落となった。全体の約6割を占める重袋用両更クラフト紙が全体を上回る落ち込みを見せ下落幅を拡大させた。

「2013年予測」

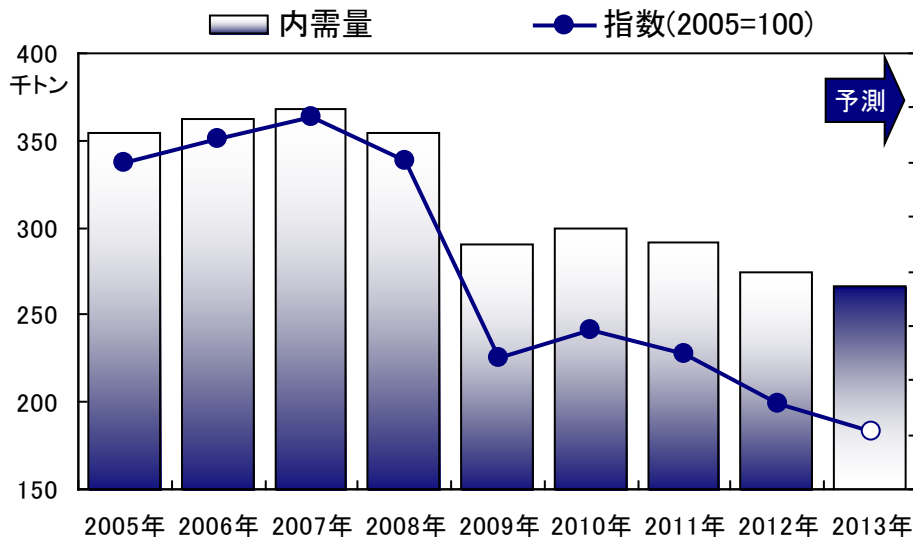
☆品種別にみると、重袋用両更クラフト紙は、袋用途で戸建住宅及びアパートの建設増加でのセメント向け需要増が期待され、米麦・製粉等の食品向けは前年並が予想される。しかし最大の需要先(2割強)である合成樹脂・化学薬品向けは、企業の海外生産シフトの影響が大きく、下落が予想されることから袋用途全体ではマイナスを予想した。またワンプを中心とする加工用途も、紙生産の低迷を考慮し、マイナスを予想した。その他両更クラフト紙は、特殊両更が、その需要のかなりの部分を占める封筒用途の圧着葉書化、ウェブ化の流れの継続からマイナスを予想。一般両更では個人消費の回復いかに、手提袋向けを中心に需要上ぶれの期待もあるが流動的。

☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し3.0%の減少と予測した。

寄与度



(5) – ② さらし包装用紙



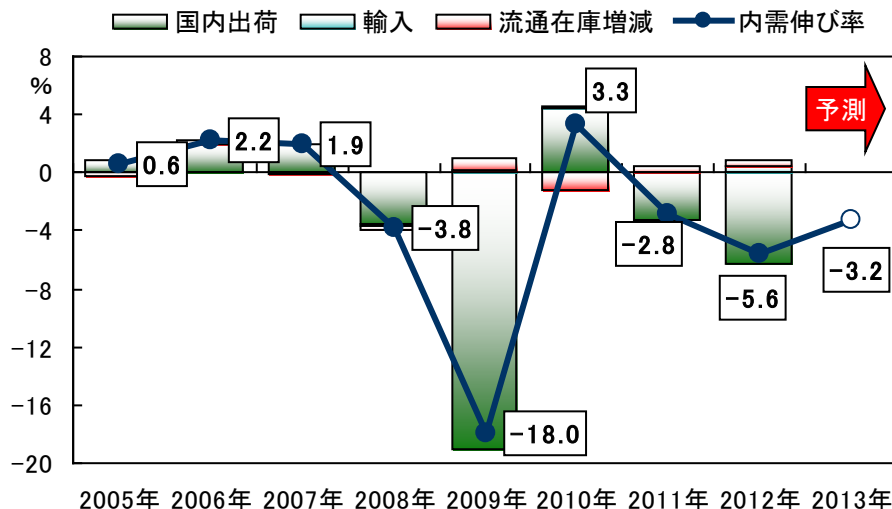
「近年の動向」

★2012年のさらし包装用紙の内需は前年比で5.6%の下落となった。2009年以降4年連続の30万トン割れであり、他部材変更等により、リーマン・ショック後もほとんど回復を見せず、2012年の内需量は27.5万トンと2009年レベルを下回った。

「2013年予測」

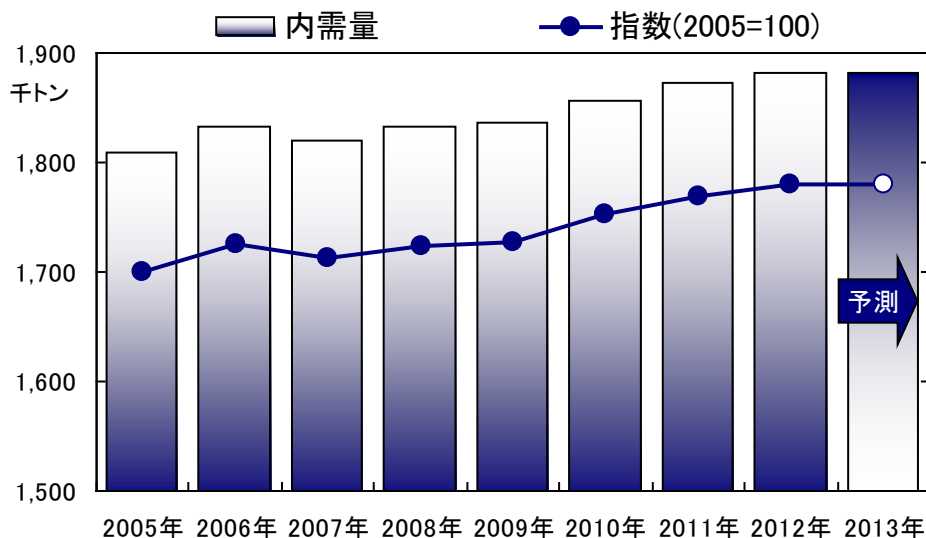
☆品種別にみると、さらしクラフト紙については、手提袋向けで、個人消費の回復を背景とする需要の回復は期待されるものの、さらしから未ざらし包装紙へのシフトの継続から減少が予想される。包装・封筒向けでは、安価な印刷用紙への部材変更が続き、封筒は圧着葉書化やウェブ化の進行が重なり減少と予測した。純白ロール紙は、食品・薬品用途は比較的需要が安定しているが、包装用途全体では上質紙等、他品種への部材変更が進むと見られ減少が予想される。加工分野も、部材変更に加え、日めくりカレンダーの一層の減少等、需要増の要素がほとんど見られず、マイナスを予想した。

寄与度



☆以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し3.2%の減少と予測した。

(6) 衛生用紙



「近年の動向」

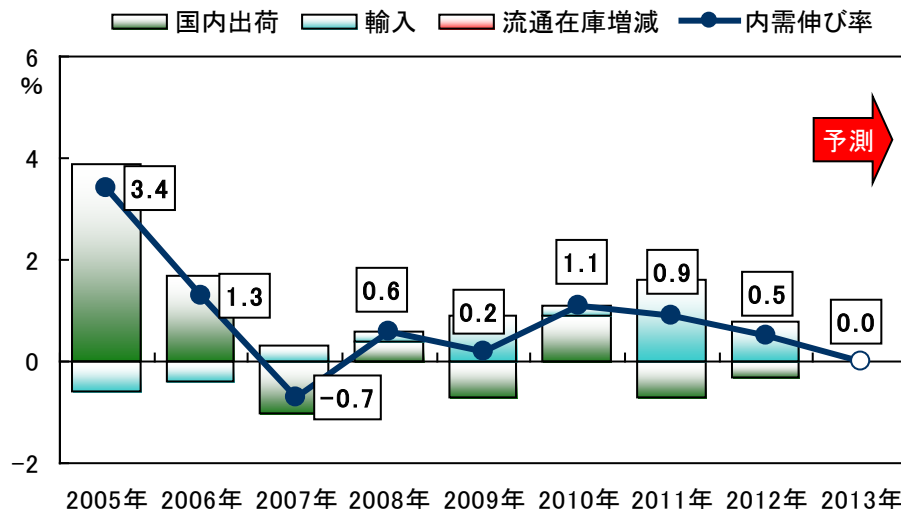
★衛生用紙の内需は、人口減少等の構造的要因はあるものの、2008年以降横ばいながらも、前年を上回って推移している。リーマン・ショック後の景気低迷時(2009年)においても、紙・板紙の主要品種の需要が軒並み減少する中、生活必需品として底堅く推移しており、2012年もプラスを維持し、5年連続の増加となった。サプライ別には、国内出荷は2年連続の減少、一方、輸入は製品輸入を中心に大幅に増加し、6年連続で前年を上回った。

「2013年予測」

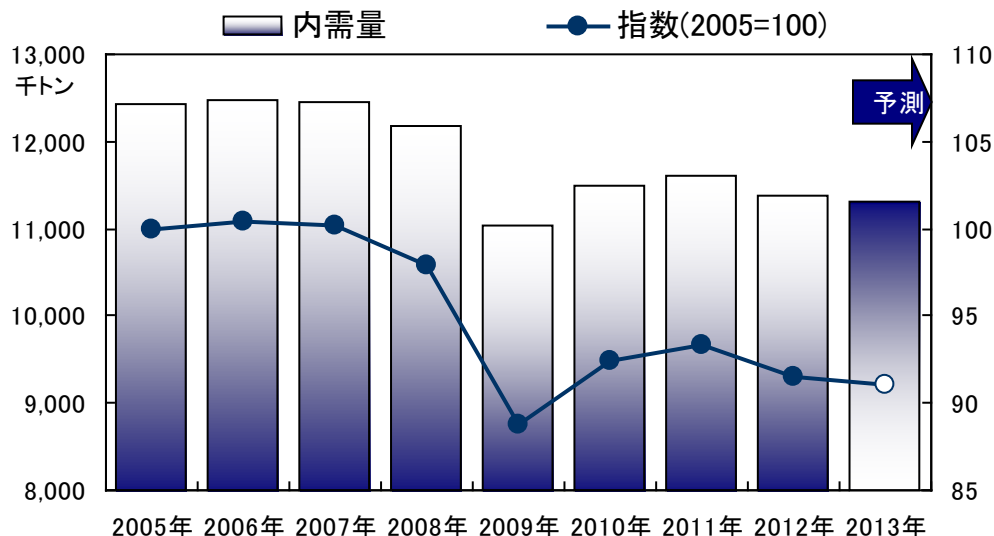
☆衛生用紙は、人口減少、消費者の節約志向、うるう年の反動といったマイナス要因はあるものの、生活必需品としての底堅さに加え、世帯数の増加等による需要増も期待できることから横ばいを予想する。品種別にみると、ティシュペーパーは、節約志向の影響が大きいものの、花粉飛散数の増加予測もあり横ばい。トイレットペーパーは、旅行客の増加が見込まれることもあり、業務用については需要増が期待できる。タオル用紙については、予防衛生意識の定着等により、家庭用、業務用ともに前年横ばいを見込む。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年横ばいを予測した。

寄与度



(7) 板紙合計



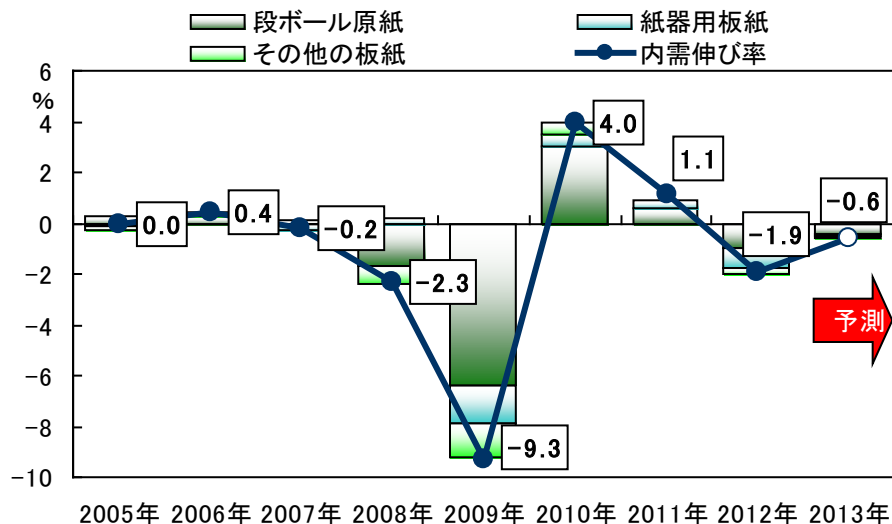
「近年の動向」

★板紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、2010年は前年の大幅減の反動増もあり4年ぶりに増加に転じ、2011年も大震災の影響により需要は一時停滞したものの、食品向けが堅調に推移したことや被災地への支援物資の搬送等もあり、前年を上回った。2012年は前年の大震災による特需の影響や輸出関連需要の減少により再びマイナスとなったが、リーマン・ショック後の水準は上回っており、紙に比べれば、相対的には堅調に推移している。

「2013年予測」

☆主要品種について、主力の段ボール原紙は0.5%の減少、紙器用板紙は0.7%減(うち白板紙は0.6%減)と、ともにマイナスを予測する。

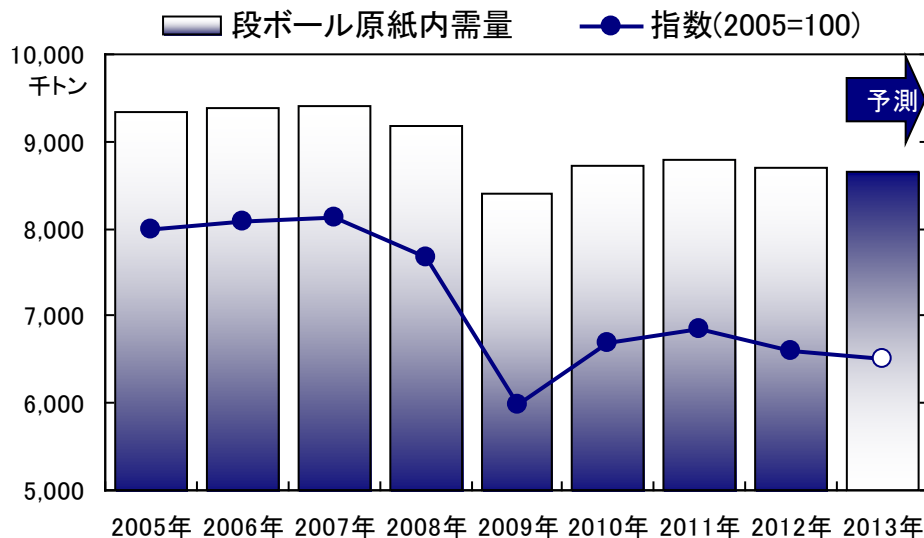
寄与度



☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,131万トン、前年に対して0.6%減、約7万トンの減少となる。マイナス成長は2年連続。過去の実績値と比較すると、過去最高の1997年(1,282万トン)に対しては88.2%、約151万トンの減少となる。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.4pt減、紙器用板紙は0.1pt減、その他の板紙が0.1pt減と主力の段ボール原紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

(8) 段ボール原紙①



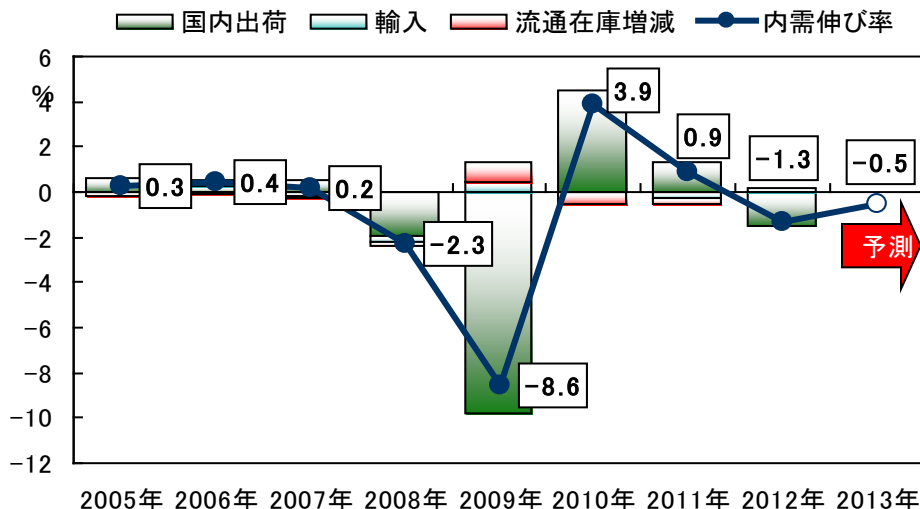
「近年の動向」

★段ボール原紙の内需は2009年に経済状況の悪化により大幅なマイナスとなった。2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラスに転じ、2011年は堅調な食品需要に、大震災の特需もあり2年連続のプラスとなったが、2012年は電気・機械器具向けの不振や薄物化の影響等から3年ぶりのマイナスとなった。

「2013年予測」

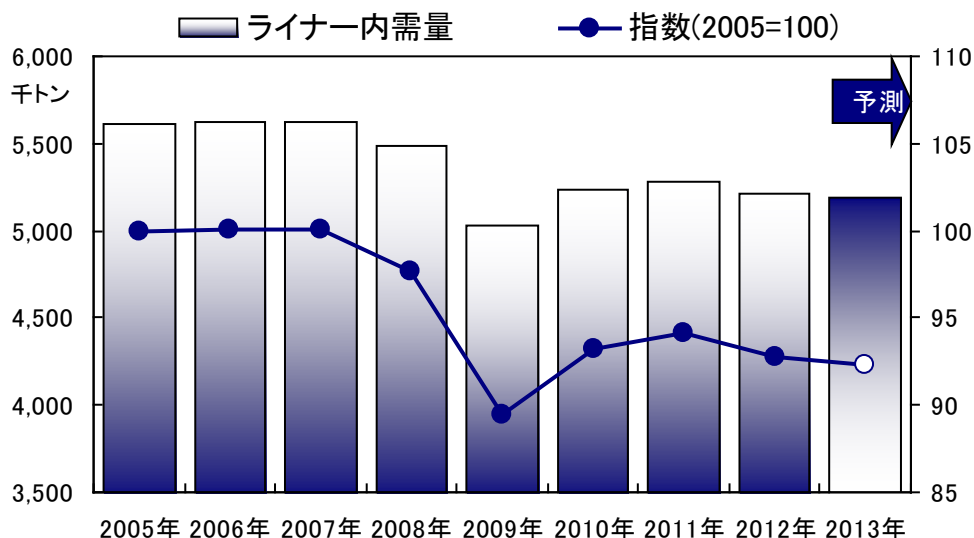
☆全国段ボール工業組合連合会(全段連)の需要予測によれば、段ボールシートの生産は0.5%増と伸びは鈍化するものの、引き続きプラスと見ている。主要分野では、工業製品等の電気・機械器具向けはエコカー補助金の反動や輸出関連需要の低迷からマイナスを予想しているが、過半を占める加工食品等の食品向けは内食化継続を背景に堅調に推移すると見ている。これらの需要動向を踏まえ、段ボール原紙については、需要業界のコスト削減に伴う薄物化を織り込み、微減ではあるが、前年を下回ると予想する。

寄与度



☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.5%の減少(ライナー0.5%減、中しん原紙0.5%減)と予測した。

(8) 段ボール原紙②



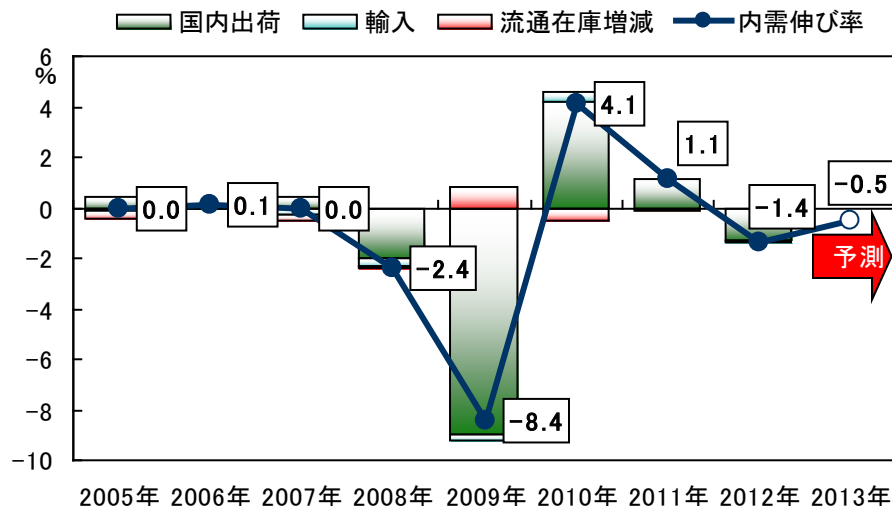
「2013年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品向け(2012年1-10月需要部門別構成比:41.2%)は、内食化の継続からレトルト食品や冷凍食品等は堅調と見られ、また菓子関係はチョコやスナック菓子を中心に増加が予想される。飲料関係では、ビール類は、低価格志向を背景に増加してきた「新ジャンル」は伸びが鈍化しており、また「発泡酒」は引き続き減少が見込まれることから、ビール類全体では前年を下回ることが予想される。清涼飲料は、炭酸飲料で増加が見込まれることやミネラルウォーターも堅調に推移していることから、全体では増加が予想される。

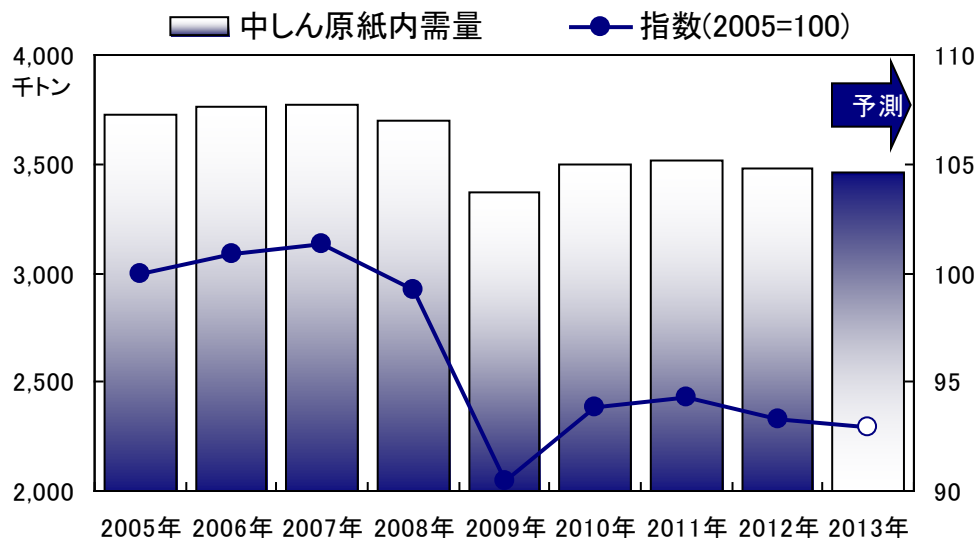
☆青果物向け(構成比:11.7%)は、作付面積の減少傾向といったマイナス要因はあるが、本年がみかんの表作であることや、内食化も追い風になると見られ、前年並みが予想される。

☆電気器具・機械器具向け(構成比:8.0%)は、住宅需要の増加や復興需要の恩恵は期待できるが、エコカー補助金の反動や国内工場の閉鎖・縮小等の影響も懸念され、減少が予想される。

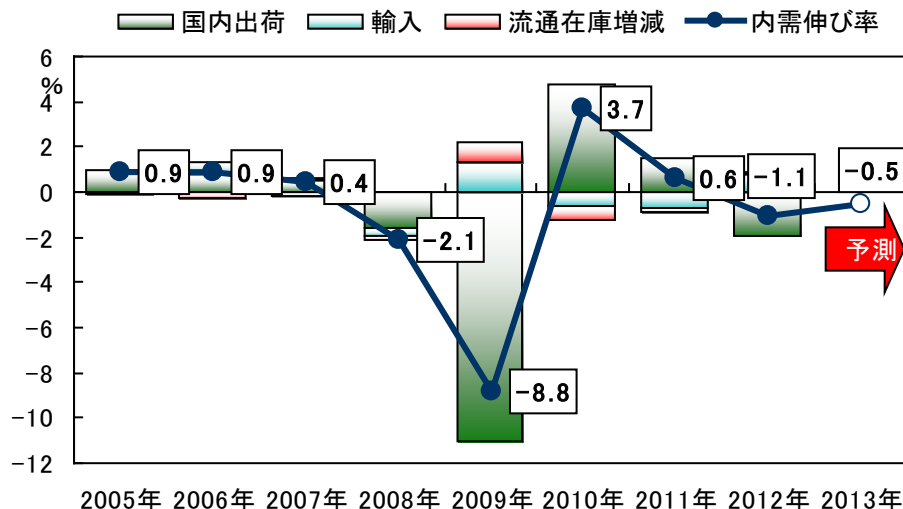
寄与度



(8) 段ボール原紙－③



寄与度



「2013年予測:分野別の需要動向」

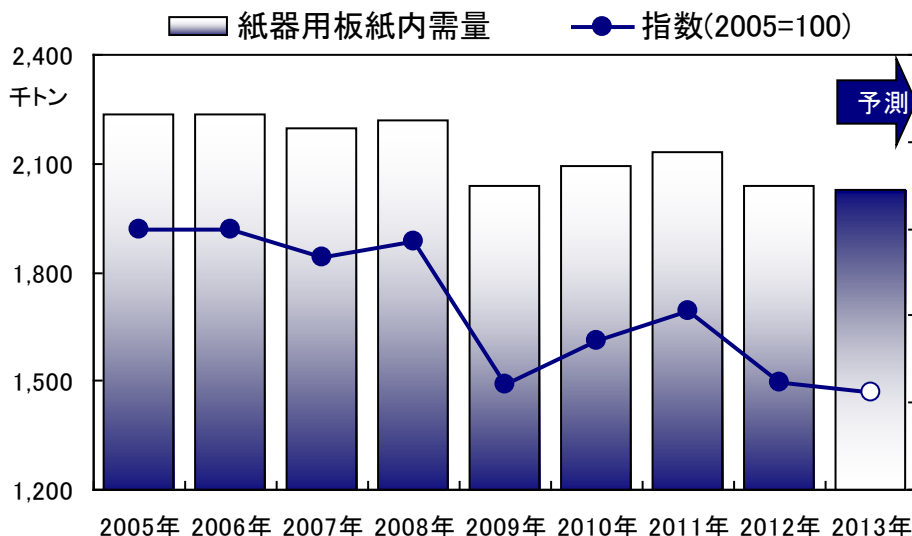
☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.0%)は、ジェネリック医薬品の拡大や漢方薬の増加、大手ドラッグストアの出店増、さらに新国民病「ロコモ(運動器症候群)」の予防関連市場の拡大も期待され、前年を上回ることが予想される。

☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.6%)は、消費者の買い控えや廉価な輸入品の流入は引き続き懸念されるものの、復興需要や住宅需要の増加はプラスに寄与し、増加が予想される。

☆通販・宅配向け(構成比:3.5%)は、ネット通販を中心に市場が拡大していることや、家ナカブームや高齢化社会も追い風となり、増加が予想される。

☆繊維製品向け(構成比:2.3%)は、輸入品の増加は懸念されるが、低価格品市場が堅調なことや、節電意識の高まりからウォームビズを中心に需要が期待されるため、前年並みが予想される。

(9) 紙器用板紙—①



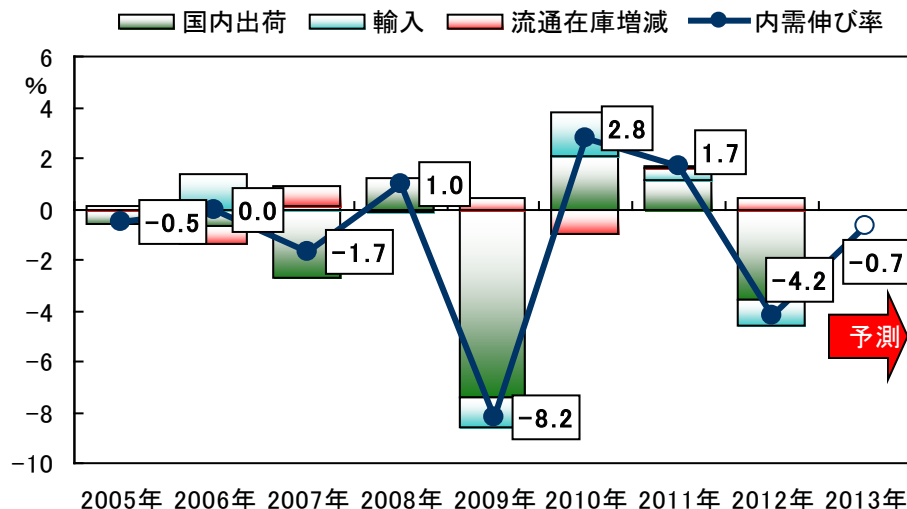
「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は2009年に経済状況の悪化により大幅なマイナスとなった。2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等からプラスに転じ、2011年は堅調な食品需要に、大震災後の支援物資需要もあり2年連続で前年を上回ったが、2012年は前年の大震災による特需反動等により再びマイナスとなり、内需規模は2009年と同レベルとなった。

「2013年予測」

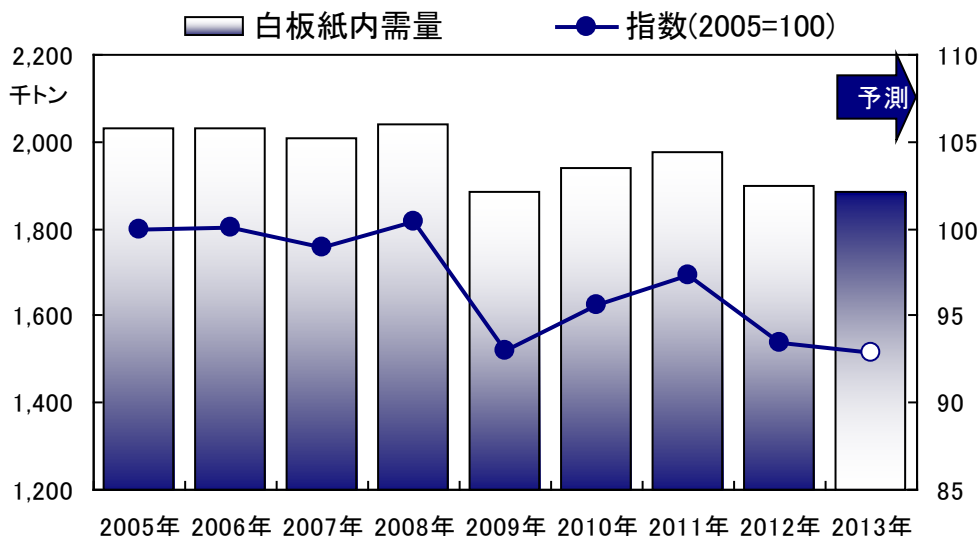
☆需要家のコスト意識は強く、箱の小型化や軟包装化等の動きは引き続き予想される。また一部需要先である印刷分野は、出版向けを中心に不振、加えて前年に比べ大きなイベントが少ないというマイナス要因もあり、落ち幅は縮小すると見るが、前年を下回ると予想する。

寄与度

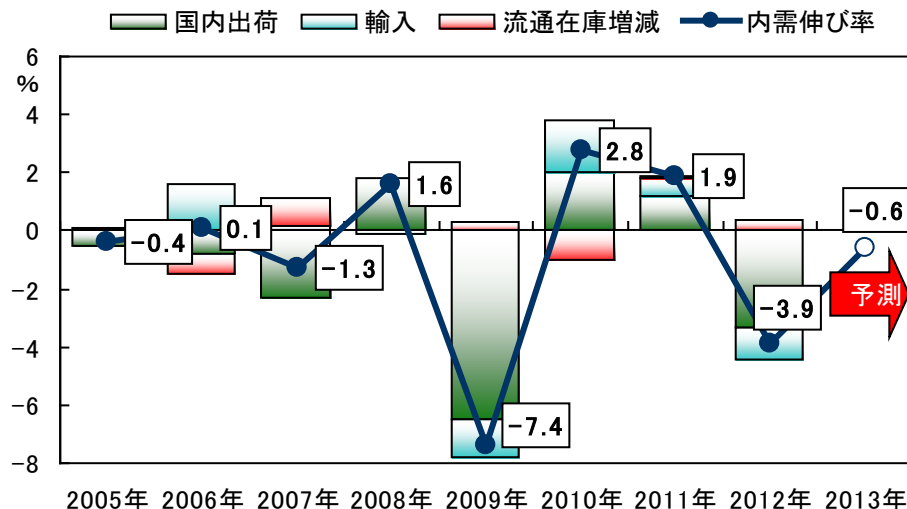


☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.7%の減少(白板紙0.6%減、黄・チップ・色板紙2.0%減)と予測した。

(9) 紙器用板紙—②



寄与度



「2013年予測:分野別の需要動向」

☆食品向けは、節約志向を背景に内食化は継続すると見られる。その中で、レトルト食品は簡便性や低価格志向から増加が予想され、またコンビニの出店増等による売り場面積の拡大も追い風と見られる。一方、菓子関係は手作りチョコの需要増や防災需要等のプラス要因はあるものの、大袋商品といった軟包装の利用増もあり増加が期待できないため、全体では前年並みと予想される。

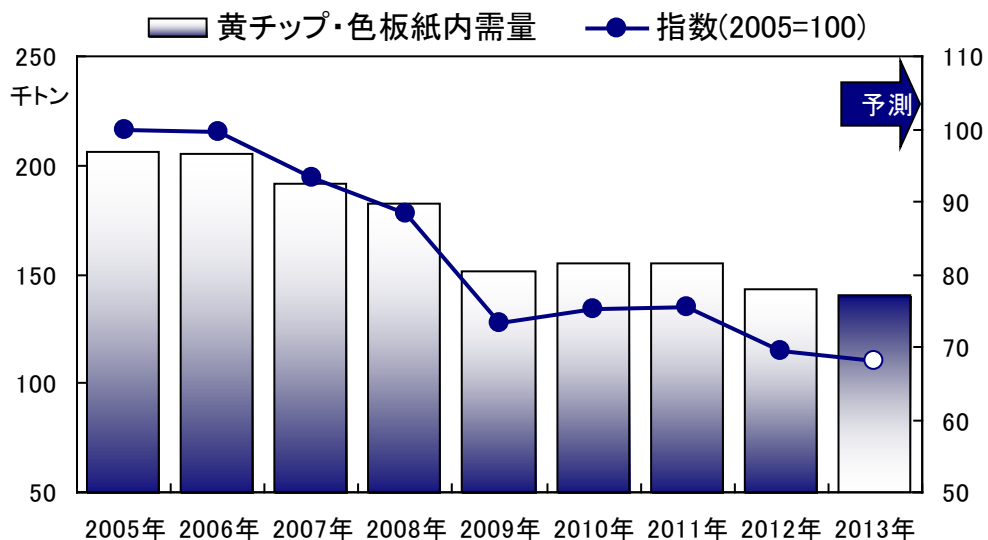
☆医薬・化粧・日用品向けは、ジェネリック医薬品の普及による需要拡大や漢方薬の増加、大手ドラッグストアの出店増、内食化を背景としたラップ需要等もあり、増加が予想される。

☆洗剤向けは、消費者の節約志向はあるが、前年並みが予想される。

☆ティッシュ向けは、消費者の節約志向はあるものの、花粉飛散数の増加予測もあり、横ばいまたは微増が予想される。

(次頁に続く)

(9) 紙器用板紙—③



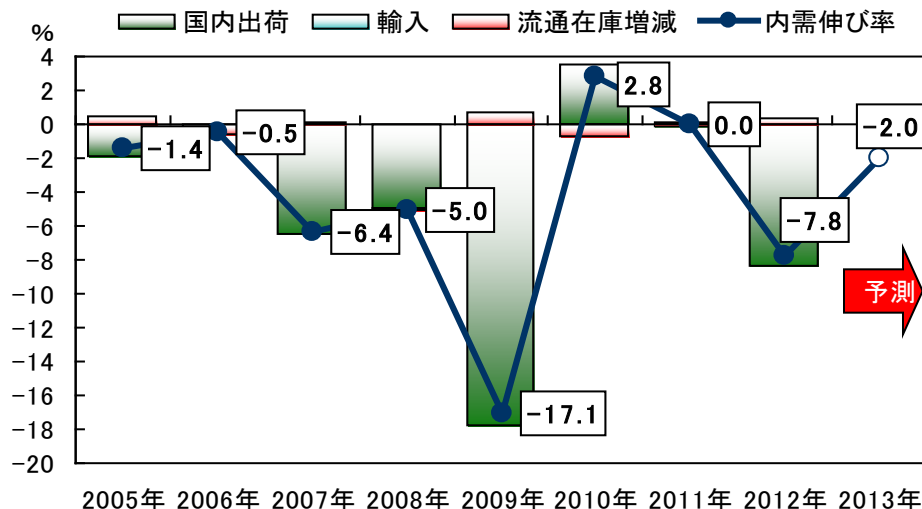
「2013年予測:分野別の需要動向」

☆商業印刷向けは、店頭販促品であるPOPは堅調と予想されるも、トレーディングカードはこれまでの伸びが鈍化するとみられ、全体では微増と予想される。

☆出版印刷向けは、人口減、活字離れ等を背景に定期刊行物の休廃刊や発行部数の減少は引き続き予想され、また前年に比べ大きなイベントが少ないというマイナス要因もあるため、減少が見込まれる。

☆文具事務用品向けは、少子化やOA化の浸透でファイル類の減少傾向は継続すると予想される。

寄与度



Ⅲ. 2012年紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		12年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	3,261,421	102.5	42,355	66.9	3,303,776	101.8	0	3,303,776	101.8	100.5	1.3
	非塗工印刷用紙	2,083,200	94.6	234,879	102.1	2,318,079	95.3	▲ 24,560	2,342,639	96.5	97.6	▲ 1.1
	塗工印刷用紙	4,455,274	95.4	1,011,924	108.8	5,467,198	97.6	▲ 24,106	5,491,304	98.0	99.6	▲ 1.6
	情報用紙	1,317,448	95.1	536,202	112.9	1,853,650	99.7	3,157	1,850,493	99.9	99.0	0.9
	印刷・情報用紙計	7,855,922	95.1	1,783,005	109.0	9,638,927	97.4	▲ 45,509	9,684,436	98.0	99.0	▲ 1.0
	未ざらし包装紙	488,989	93.3	11,200	107.9	500,189	93.6	267	499,922	93.6	99.0	▲ 5.4
	ざらし包装紙	271,718	93.7	2,622	204.5	274,340	94.2	▲ 934	275,274	94.4	98.8	▲ 4.4
	包装用紙計	760,707	93.5	13,822	118.5	774,529	93.8	▲ 667	775,196	93.9	98.9	▲ 5.0
	衛生用紙	1,772,587	99.6	109,897	116.6	1,882,484	100.5	0	1,882,484	100.5	100.2	0.3
	雑種紙	725,432	96.9	20,435	103.5	745,867	97.1	0	745,867	97.1	100.0	▲ 2.9
紙 計	14,376,069	97.3	1,969,514	108.0	16,345,583	98.4	▲ 46,176	16,391,759	98.8	99.5	▲ 0.7	
板紙	ライナー	5,128,555	98.7	81,399	93.7	5,209,954	98.6	▲ 263	5,210,217	98.6	101.0	▲ 2.4
	中しん原紙	3,432,175	98.1	47,994	224.9	3,480,169	98.9	2,061	3,478,108	98.9	101.0	▲ 2.1
	段ボール原紙計	8,560,730	98.5	129,393	119.6	8,690,123	98.7	1,798	8,688,325	98.7	101.0	▲ 2.3
	白板紙	1,440,874	95.7	452,920	95.6	1,893,794	95.7	▲ 3,382	1,897,176	96.1	100.7	▲ 4.6
	黄チップ・色板	142,401	91.7	0	-	142,401	91.7	▲ 693	143,094	92.2	100.0	▲ 7.8
	紙器用板紙	1,583,275	95.3	452,920	95.6	2,036,195	95.4	▲ 4,075	2,040,270	95.8	100.6	▲ 4.8
	その他の板紙	636,962	96.8	14,709	112.7	651,671	97.1	607	651,064	96.9	100.0	▲ 3.1
板紙計	10,780,967	97.9	597,022	100.3	11,377,989	98.0	▲ 1,670	11,379,659	98.1	100.9	▲ 2.8	
紙・板紙計	25,157,036	97.5	2,566,536	106.1	27,723,572	98.3	▲ 47,846	27,771,418	98.5	100.0	▲ 1.5	

注) 1) 国内出荷: 雑種紙に含まれる塗工印刷用原紙は除いてある。

2) 輸入: 新聞用紙は業界値を使用。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上。

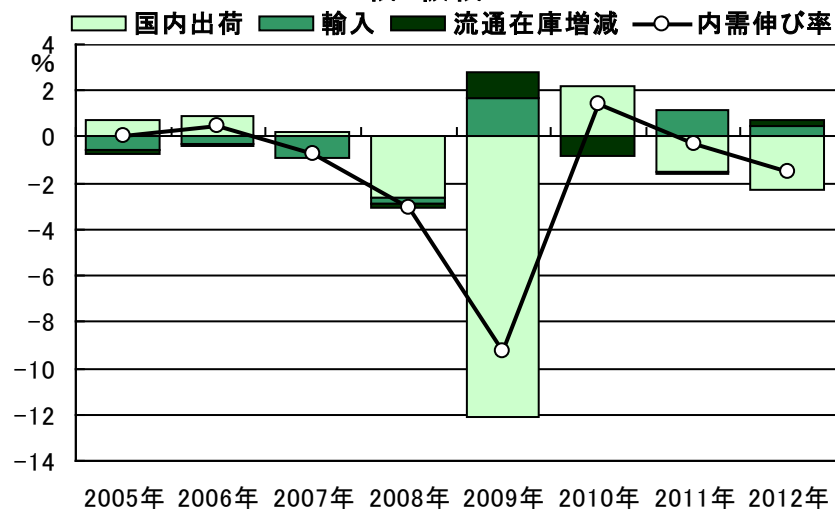
重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上。

衛生用紙は主としてティッシュ・トイレットとみられるものを計上。

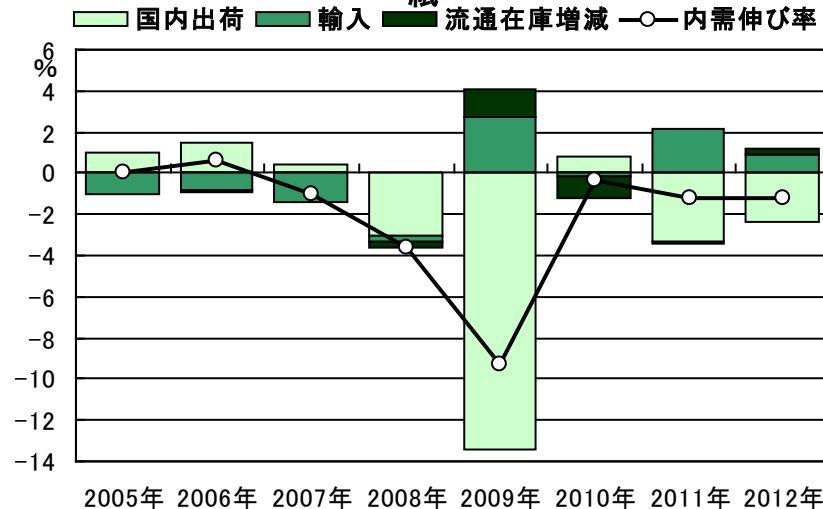
白板紙はミルクカートン用紙を含む。

IV. 参考① サプライ別内需寄与度の推移

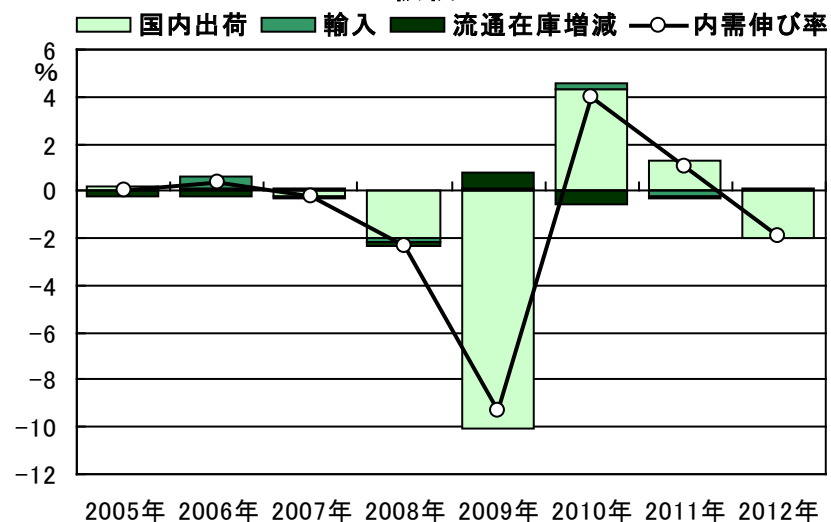
紙・板紙



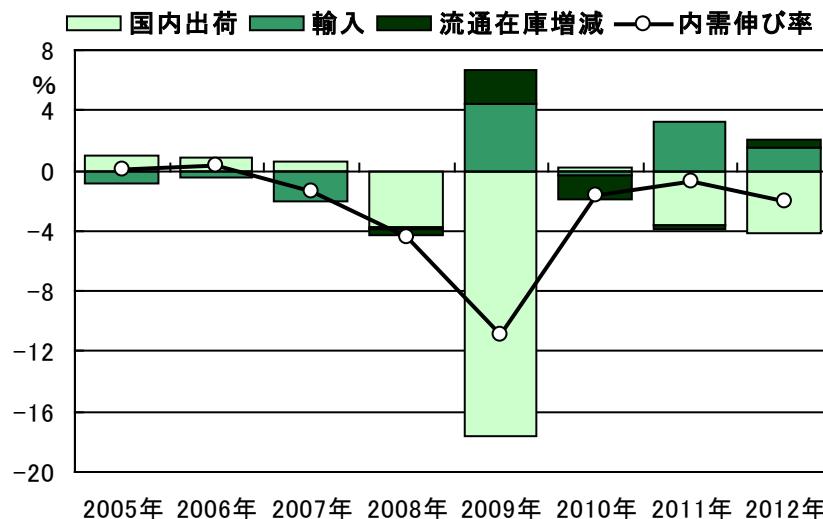
紙



板紙



印刷・情報用紙



参考②

内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等統計的な手法も使用している。なお、予測値及び見込み数値等は以下の点に留意されたい。

- ①衛生用紙の実績及び見込み数値には、原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品として、前回の内需試算より新たにティシュペーパーの輸入を追加し、過去のデータも遡及訂正した。
- ②2011年以降の段ボール原紙の実績及び見込み数値は、従来、使用していた経済産業省発表の段ボールメーカーの原紙在庫が2011年から同省の統計見直しにより把握できなくなったため、以前の数値とは不連続となっている。但し、伸び率は調整した。
- ③雑種紙及びその他の板紙の予測については、前回の内需試算より、この2品種を除く紙・板紙合計の伸び率を使用した。
- ④予測値及び見込み数値等は2012年12月28日時点で得られた情報を基に作成した。